

1, あいさつ (河原崎教育長)

前は、10月3日に予定していたが、台風の関係で中止となった。こうして一同に会するのは、久しぶりです。新たに、新鮮な気持ちで語り合しましょう。

2, 会長から (御前崎中学校区会長)

今回は、3回目。「早寝早起き」が習慣になっている家庭では、当たり前かもしれませんが、習慣づいていない家庭の方にとっては、難しいかも知れないが、こうして皆さんが集まって、それを、少しでも浸透させていこうと考えていくことで、いずれは、保護者・生徒の皆さんに浸透していくのではないかと思う。本日も、宜しくお願いいたします。

3, 事務局からの報告及び提案

(1) グッドマナー運動の各園・校の取組の様子

(動画を見ながらの報告)

(2) 2中学校の職業講話(キャリア教育)の様子

- ・生徒たちは、地域で頑張っている人たちの思いを感じ取ったり、自分の将来について考えたりしている。また、2中学校とも大変充実している。大変、嬉しく、有り難いことだと思っている。

(3) スクラムカレンダー作製ボランティア交流会の報告と対応

(資料にそって報告)

- ・ボランティアさんの感想・・・「ボランティア同士で、協力・工夫し合って進めている」「他校のボランティアさんと話ができよかった」など。
- ・要望・・・「カレンダーを公共機関のいろいろな場所においてもらいたい。」「カレンダー作成の予算を確保してもらいたい」等。
- ・課題・・・「ボランティアがなかなか集まらないので、困っている」「班外の人にも届く方法を考えていきたい」
- ・対応・・・カレンダーは、市の施設に貼っていくようにしたい。また、産業祭でも掲示・配布予定。カレンダー作り関係の予算も要望中。

(4) 小5児童、中2生徒の5日間の結果と年長保護者へのメール調査結果報告と12月調査の目標値について

- ・資料を元に報告
- ・12月の調査・・・目標数値をもって取組みたい。

(5) 御前崎市大産業祭の『早寝・早起き・朝ご飯』のブースについての提案

- ・11月25日 2日目に実施。
- ・ブースの内容
 - ・朝食コンテスト・・・健康づくり課管理栄養士さんに協力してもらって作ったレシピに投票
 - ・その他、浜中生・食推協の協力をお願いする。
 - ・レシピ・読み聞かせの本・クリアファイル配布予定。
 - ・スクラムカレンダーの展示・配布。

(6) 質疑応答

- Q・・・小中学校のアンケート調査の方法と回収率はどのくらいか？

12月調査は、どんな方法で実施する予定か？

A・・・小中の回収率は、ほぼ100%。今回の調査の中に、保護者の声に、かなりいい意見が出ている。保護者が頑張ってるという手応えを感じている。12月の調査は、小中学校は、メール調査をしたいと思っている。

4、協議

- (1) 朝ご飯調査の結果について どのような感想をもったか。12月調査の実施や目標値についてご意見をください。
- (2) 大産業祭の『早寝・早起き・朝ご飯』のブースについて ご意見をください。

5、全体会

12月調査・目標値・メール調査について協議

(第一小学区)

・朝ごはんの調査について・・・

早寝・早起き・朝ご飯を含めて、親の意識・子どもの意識を高めることが大切。時間の使い方を考えていく必要がある。子どもたちは、朝部活・スポ少・習い事があつたりするので、一方的な押しつけでなく、親子でコミュニケーションを取っていくことが大事。親子でよく話し合っ、何が大切で、どういう生活をしていくかが大事。しかし、今は、コミュニケーションもなかなかとれないので、いろいろな人が間に入りながら、伝えていくことが大事ではないか。『子どもにとって何が必要か』ということ、学校・地域・スポ少など、子どもに関わる全ての人々が共有していくこと、それを見える化しながらどう援助・サポートしていくかが大切ではないか。講演会で重要性や危機感を伝えていくことも重要ではないか。説明されないと親もわからないので、なぜ大切なのかを伝えていくことが大切。

(高松地区)

・朝ごはんの調査について・・・

朝食調べの現状から浜保・高保とも100%だったが、高幼は100%ではなかった。朝食の大切さを保護者へ意識づける。子どもへも毎日励ましながら。親だけでなく、子どもたちにも話をしよう。定期的な調査は効果的。高保は、朝・夜食べたものを連絡ノートに書くきまりになっている。書くことがきまり・習慣になっているので、食べるのが習慣になっているとのこと。

早寝・早起き・朝ご飯の3つがあるが、まずは一つ。『朝ご飯』という風に、クリアーすることをひとつに絞ることが大事ではないか。3つとも大事だが、1つにすればどうか。

ブース・・・「すごいのをやってるよ」と、園でPRしていこう。

(東小学区)

・朝ご飯の調査について・・・

親が作らないと始まらないことなので、親としての責任を果たすこと、意識を高めていくことが大切。調査・・・少しずつ向上がみられるので、大切さを訴え続けることが大事。子どもたちが大きくなって親になった時に、朝ご飯の大切さを子どもに伝えるように。大学の講師の講演会をやるとか、観光親善大使への「朝ごはん」についてのインタビューをやるとか、いろいろな方法があるのではないか。

目標値の数値だけでなく、内容の調査をしていくことで、大切さも伝わる。理解も深まっていくのではないか。

・ブースについて・・・

何でやるのか？という意見も・・・。実用的なので、メニューは欲しい。スクラムカレンダーは、個人情報ではないが、子どもの動きがわかるので、そういう面での心配もあるのでは・・・。市や各校のホームページでも見られるので、いいのではないかと・・・という意見もあった。

(北小学区)

・朝ご飯の調査について・・・

取ったデータを活かしたデータにしていくということで、なぜやるのかの『ねらい』や『目的』を明確化する必要がある。せっかく取ったデータなので、結果をフィードバックする必要がある。学力や生活・体力・健康との関連づけ。結果を返していく必要があるのではないかとという意見もあった。早寝・早起きの項目にアンケートにも入れたらどうか。

・ブースについて

コンテストについては、違和感を覚えるという意見もあった。母親だけでなく、父親・男でもできるメニューやレシピも紹介していったらどうか。

(中学校合同)

・朝ご飯の調査について・・・

食べていない子への追跡調査をしたらどうか。(なぜ食べていないのかを調べる)

朝食の提供事業を始めたらどうか。広島県で始まったようだが、この地域でもやってみたらどうか。

部活や塾で就寝時刻が遅い子もいる。12月は、目標クリアーを目指したい。もっとおもしろい取り組みはないか。やらされている感がある。楽しみながら、『早寝・早起き・朝ご飯』ができる方法はないか。

・ブースについて・・・

食べ物を置くことはできないということなので、PRブースは、あまり、人は来ないのではないかと・・・。朝食や学力の関係のアピールをしたらどうかという意見もあった。

(地小学区)

・朝ご飯の調査について・・・

食べてはいるが、どんなものを食べているか。食べている内容はどうか。肉・卵・魚などもやり方によっては、簡単に栄養がとれるのではないかと。

親の意識ということで、どうやって意識付けをするか・・・今やっているような発信する・アンケート・投げかけてPRする等が大事。仕事の職種によっては、朝、なかなか時間がもてない家庭もある。『100%にいかない、数%の子どもにどうやって手立てをするか』をめあてに考えていくことが大切。

・ブースについて・・・

レシピは、取り組み易いものを。難しくなく、誰でも簡単にできるレシピがあれば、やってみようかなと思うのではないかと。

ブースでは、試食ができるといいという案がでた。作り方を見たり、美味しそうと思ったりすると、きっかけ作りになるのではないかと。

(白小学区)

・朝ご飯の調査について・・・

資料の中の保護者の声には、意欲的な意見が多数。アンケートの結果・保護者の声を伝えることで、もっと意欲的になるのではないかと。

調査方法・・・食べている中身が大事。園でも、どのようなものを食べているかを調査して欲しい。

数値・・数値的にはいいが、目標数値に届くための手立てが必要。大産業祭のブースが手立てに繋がるのではないか。

・ブースについて・・

園には、小さい子がいる。スプーン・箸を上手く使えない子が多い。手で食べてしまう子もいる。スプーンやお箸の持ち方を親が教えられない現状がある。そのパンフレットも配布したらどうか。

(御小学区)

・朝ご飯の調査について・・

12月の調査をやるのはいいと思う。5日間は大変ではないか。まず、1日で、全員に対して実施するのはどうか。目標値については、数値の根拠を知りたい。目標なのだから、100%を目指せばよいのではないか。

メール調査・・全員調査でよいのではないか。食べられていない原因を知ることが大事。アンケートの中で記入するようにしたらどうか。

・ブースについて・・

事前PRはどうするのか。当日、クリアファイルのみで集まるかどうか？『スクラムスクール』を知ってもらうことが大事なので、まず、やってみるのがよい。知ってもらうだけでも価値がある。やっている人の励みにもなる。

(課長より)

・産業祭まで、あと10日あまりなので、進めていきたい。浜中生がいることは、強みだと思っている。PRは、18日の「未来を紡ぐ集い」でPRする予定。

・朝ご飯の調査について・・

「12月に実施するということで良いか？」という投げかけ。・・参加者、了承してくれた。

メールの内容・文面は、前回と同じ形で行いたい。

「調査対象の学年は、どうしたらいいか？」という投げかけ。

『全体がいい』『最終的には、全体だが、月ごとやるのはどうか』『結果がすぐに出るなら全体で』『対象が多い方がいいのではないか』等という意見が出た。

兄弟数が多いと保護者の負担が大きくなるので、担任から子どもに「保護者にメールがいくこと」を伝えてもらって、協力を得るといえるのはどうか。学校・園便りに入れていただけないだろうか。

(参加者より)

「調査をいつやります」「12月の〇〇日にやります」ではなくて、抜き打ちでやる方がいいと思う。調査・アンケートをして、データを取ったら、フィードバックしてやるのが大事。フィードバックしないと、次の回収率が減る。データを取った人たちは、『どう評価し、何に使っているか』を、返してあげないといけない。ただ単に評価するだけではいけない。『これをこういう形で活用していきます』という考え方でいいので、伝えてあげた方がいいと思う。

「朝食を食べることが必要だ」「こういう調査をしてきたい」「調査結果を、教育委員会・学校はどのような風に使っているか」ということを伝えていかないと、なかなか協力してもらえないと思う。

調査は抜き打ちでやるべきだと思う。

メールでの返信が70%ということは、おそらく、返ってこない人が、良くないデータの因子になる可能性が大きいと思う。

回収率を上げるということ、そのためには、メールがいいのか。紙媒体がいいのかを考えていく方がいいのでは・・。メールで取って回収率は少ないけれど、上がってきたデータは、結果、いい方向のデータになっ

てしまうということもあり得るのではないか。

(課長)

今回の調査は、初めてだったので、3択位しかないようにして出した。12月調査に本腰を入れて取り組んでいきたい。調査については、再度、校長・園長あてに、こちらから提案を出して、相談していきたい。

6, 指導・助言 静岡大学 島田先生

朝ごはん調査について・・・データに基づいて検討するというのをエビデンスという。データは、非常にわかりやすい。けれども、データがあれば万能かというところばかりではなく、データをどう解釈するか。解釈ということが重要。解釈というのは、見方によって、いろいろな解釈ができる。今日もいろいろなグループでいろいろな解釈があった。

話を伺っていて、大きく二つに分けるとすると、

①朝ご飯そのものの改善。

②朝ご飯を、ひとつの要素としての改善。 ということだったと思う。

1つのデータから次の問いが生まれる場合がある。改めて考えていただきたいのは、いろいろな目標・段階があるが、一番は目指す理想像。目指す姿は何なのかを改めて考えていくとよい。まあ、それが子どもたちの健やかな成長ということに関わってくるのだと思うが・・・。

フィードバックの重要性。

フィードバックをするには、どんなデータだったらいいのか。データが全てではない。実感としてもつには、どんな機会にどんなことができるのかを見ていくことも大事。

併せて調査協力者については、調査を何のために使っているのかがないと、なかなか協力してもらえない。協力してくれる人は、なぜ協力してくれるかというところ、それによって、良くなったなという実感をもつこと。それがあれば、次への協力が繋がる。

保護者も子どもたちも貴重な時間を作って答えてくれている。調査することによって、回答した人が、良くなったと思えるようなしなやかさを併せて考えていくと、回収率を増やすということにもなるかも知れない。今は、大きなキーワードにしているが、それ以外のところにもどんな要素があるかということやそういった意味で、広がるかも知れない。

この、データを続ける限り取るということがここまで出来たということは、素晴らしい。それを元に意見交換ができたということでもまた課題が見えてきたということは、とても重要なこと。

あと1回データが出てくるので、皆さんで、データをつきあわせながら、多くの人が成功体験を感じることができる手立てを議論していくとよいと思う。